

# 「確かな学力」の向上と「心の教育」の充実

Perspectives on School Education at Yamanashi Prefecture in 2004 : Part II

永井達彦\*  
NAGAI Tatsuhiko

## 1 やまなしの教育基本計画

山梨県教育委員会では、時代の要請にこたえ、これからの特性を生かし、山梨の発展を担う人づくりに向けて、平成16年から平成25年までの向こう10年間の教育計画として『やまなしの教育基本計画』を策定した。

この計画は、「誇れる郷土 活力ある山梨」の実現を目指して策定された『山梨県長期総合計画 創・甲斐プラン21』の教育部門計画であり、「郷土を愛し 未来を拓く やまなしの教育」を基本理念とし、その実現のために、「個性・創造性に富む たくましく心豊かな人づくり」「夢と潤いのある 学びの環境づくり」「郷土への誇りと明日への活力を培う文化づくり」の3つを基本目標として掲げ、各種の教育施策を展開するものとしている。また、これまで以上に施策の実効性を上げるために、次の5つの重点施策と達成目標値を掲げるなど、具体的な指針を提起している。

### (1) 人間形成の基礎を培う家庭の教育力の向上

「声かけ、あいさつ運動」を全県的に展開し、家庭・地域・学校の連携を推進するとともに、すべての教育の出発点として、基本的な生活習慣や生活能力、人に対する信頼感や情操など、人間形成の基礎を培う家庭の教育力の向上に努める。

### (2) 確かな学力と伝え合う力を育てる国語力の向上

子どもの「読む、書く、話す、聞く」活動の推進と、主体的な学習活動を支える読書活動や国語教育の充実を図るとともに、思考力・判断力・表現力を含めた「確かな学力」と伝え合う力の基盤である国語力の向上に努める。また、広い視野に立って異文化理解を深め、異なる習慣や文化を持った人々と主体的に共生していくため、国際社会の共通語として広く用いられている英語力の向上にも努める。

### (3) 豊かな人間性や社会性を培う 心の教育の充実

豊かな感性や情操、思いやりの心をはぐくむ読書活動を充実させるとともに、美しく恵み豊かな県土を守り育て「環境日本一やまなし」の確立を図る環境教育の充実など、自然や他の人々と共生する心、よりよい人間関係や規範意識をはぐくむ奉仕・体験活動を推進し、豊かな人間性や社会性を培う心の教育の充実を図る。

### (4) たくましいからだをつくる体育・健康教育の充実

山梨の豊かな自然の中で、戸外の遊びや運動・スポーツ活動などに親しむとともに、心身の健康を考えた生活態度や望ましい食生活を実践し、たくましいからだをつくる体育・健康教育の充実を図る。

### (5) 豊かな感性や潤いのある生活をはぐくむ「郷土学」・文化活動の推進

山梨の自然や人々にふれあうことにより、郷土への愛着や誇りを培う「郷土学」を推進するとともに、優れた芸術文化に接したり創造活動に参加することや貴重な文化財の保存・活用や伝統文化の継承等に向けた取り組みを通して、豊かな感性や教養を身に付け、潤いのある生活をはぐくむ文化活動の推進に努める。

以上、5つの施策の方向ごとに指標項目が出され現況値と目標値が示されている。各校

\*教育実践総合センター客員教授（山梨県総合教育センター）

では子どもたちや地域の現状を踏まえ、それぞれ短期目標・長期目標を立て、特色ある学校づくりを通して諸課題への取り組みを開始した初年度である。

## 2 創意工夫を生かした特色ある教育活動

『やまなしの教育基本計画』の重点施策の一つである、「確かな学力」や「豊かな心」の育成についての教育活動を展開している2校について、授業参観や関係職員等との意見交換から現状と課題を報告する。

### (1) 学力向上フロンティア事業 (山梨市立山梨北中学校)

この事業は個に応じた指導の充実を図り、その成果の普及を通じて「確かな学力」の向上を図るものである。山梨北中学校においては「確かな学力の向上を目指す学習指導に関する研究」をテーマに確かな学力の育成に取り組んでいる。「確かな学力」の定義を単なる知識の量だけでなく、知識や技能を大切にしながら、①学ぼうとする力 ☆学ぶことへの関心・意欲・態度 ②学ぶ力(学び方に関する力) ☆学び方 ☆自分で考える力 ☆自分で判断する力 ☆自分を表現する力 ☆自分で問題を解決していく力 ☆自分で課題を発見する力 ③学んだ力(知識や技能の理解や習得、到達度) ☆知識や技能を身につけ、活用できる力。これらの総合的な力を「確かな学力」ととらえ、様々な指導の機会の中で工夫し実践していることが大きな成果を得ているものと思われる。

具体的な取り組みとしては、個に応じたきめ細かな指導の4つの視点として、①評価を生かした指導の改善 ②少人数指導・コース別学習など学習形態の工夫 ③個に応じた指導のための教材開発や、学習過程の支援の工夫・改善 ④学びの機会の充実(★山北タイムの充実 ★学びの集会の継続 ★朝学習の充実 ★夏休みサポートタイム、めざせ学習120時間運動 ★自分自身の振り返りノート)をあげ実践している。生徒の学ぶ機会として、山北タイムをはじめ、生徒の学びや変容の可能性を見とり、わかる喜びを与え、指導を日常的に実施しているため、授業の中でも意欲的に取り組む生徒の姿が多く見受けられた。学校全体が学ぼうとする雰囲気が高まっている今、生徒の反応から得られた手応えをより大切に、指導と評価の一体化を図り、きめ細かな指導が一層重視されるであろう。

### (2) 学習指導カウンセラー派遣に係る調査研究事業 (笛吹市立境川小学校)

この事業は小・中学校に大学研究者等の学習指導の専門家を「学習指導カウンセラー」として派遣し、その助言の下、各学校において、児童生徒の学習状況の把握、教育課程に関する自己点検・自己評価をするとともに、それに基づいた指導計画や指導方法の改善を行うなど、児童生徒の「確かな学力」の向上に向けた取り組みについて実践的な調査研究を行い、成果の普及を図るものである。

境川小学校では、「生き生きとして活動し、基礎基本を確実に身につけていく子どもの育成」を主題に校内研究を推進してきた。その研究会に、本大学の岩永正史教授と中村享史教授が継続的に派遣され、国語科教育と算数科教育の指導計画や指導方法の改善など実践的な調査研究がなされた。今までも校内研究会に大学の研究者等を招いて指導・助言を受けたが、授業研究のときとか課題解決に向けて指導をうけることがほとんどであった。しかし、今回は年間を通して定期的に校内研究会に参加し適切な指導・助言を得たので、今まで経験や勘に頼ってきた実践が理論的に解明され、自信に満ちた授業実践に変わったことが大きな成果である。「研究の初めから終わりまで流れの中で関わっていただき、岩永・中村両先生の言っていることがわかる、やってみると子どもが変わる。わかった時に教師自身も変わっていた。」という研究主任のことばが印象的である。教師の実践的力量的の高まりが大いに期待できる「学習指導カウンセラー」派遣事業である。